

こども笑育のライブラリプロジェクト

犬に触れたことがない子、怖いと感じている子も大勢います。

私たちは、その子どもたちが動物と接し、動物を正しく理解することで、本当に多くの事を感じ、学ぶ姿を目の当たりにしてきました。

例えば、同じように鼓動があることや体が温かいこと。動物も喜んだり悲しんだりすること。

これらを学ぶことで、子どもたちには人を思いやる気持ちや、命を大切にできる心が育まれます。その心は、生きる力に繋がります。

動物を通じた授業が当たり前を受けられる国になるよう、私たちは取り組んでいます。

mission

●子どもを取り巻くいじめや不登校など、心の問題解決

●凶悪犯罪の初期サインと言われる、幼少期の動物虐待防止

●ペットの飼育放棄の防止
～殺処分ゼロへ向けて～



海外では、動物を介在したプログラムが様々な効果をもたらしていることが、実証されています。

小学校での授業実施

考え、感じ、相手の感情に対する想像力を育む



動物を正しく理解する

- ・どうして4本足で歩けるの？
- ・身近な動物の鳴き声、分かるかな？
- ・どんなところで生活している？
- ・犬の体って、人と何が違うの？



実施例

犬の体をよく観察してみよう。
肉球や口、耳などを間近で観察することで、人と犬の違いを発見してもらいます。



命について

- ・犬の心臓ってどんな音だろう？
- ・殺処分から「命」について考えてみよう
- ・犬の寿命って何年？



実施例

犬の寿命は人間の約7分の1。
つまり人間の1日は、犬にとっては1週間。
生きている時間の違いを実感することで、命の大切さを考えてもらいます。



思いやりの心

- ・犬から見たら、人間ってどんな大きさ？
- ・犬にも感情ってあるのかな？
- ・なんでしっぽを振るの？



実施例

犬から見た人間の手の大きさの模型を子供たちにかざして、人間の大きさを実感。
相手の立場に立って物事を考えるということを感じてもらいます。

“犬を介在した授業”や“教材を使った授業”など、動物に関する様々な授業を通じて、「正しく動物を理解すること」や、「命について」「思いやりの心」を伝えます。



動物を通じた授業の効果

不安やストレスの軽減

末梢神経の拡張や血圧の低下、心拍数の抑制など、いわゆる「リラックス」した状態を生み出すと考えられています。



学習意識の向上

犬を介在させた授業実施後、家庭で優しい表情をしながら楽しそうに授業の話をするようになった、宿題忘れが減少した、などの報告があり、動物介在教育は学習意欲や学習効果にも良い影響をもたらすと考えられています。



命への理解

約60%の子どもがペットを飼うことで生命の大切さをより理解するようになったと、一般社団法人ペットフード協会の調査で報告されています。



海外事例 1

少年院での更生プログラムに、アニマル・シェルターに保護された犬を少年がしつけるというプログラムがあります。犬たちと心を通わせ、信頼関係を築いていく中で、責任感や思いやり、忍耐を学び、犬や他人の立場に立って物事を考えられるようになります。アメリカ・オレゴン州にあるマクラーレン少年院では、1993年に活動を始めて以来、犬を通じた更生プログラムを受けた少年たちの再犯率はゼロになっています。



海外事例 2

虐待などにより、コミュニケーションがうまく取れず、感情表現が上手にできない子どもたちへアニマルセラピーを行う施設があります。常時約100人の子どもが暮らし、日帰りで通う子どもたちもいます。子どもたちは、心や身体に傷を負った動物の世話をすることで、自分の心を動物たちに投影し、うまく感情表現できなかった自分の心と向い合えるようになります。

